

平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成30年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

※ [8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン・持久走、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

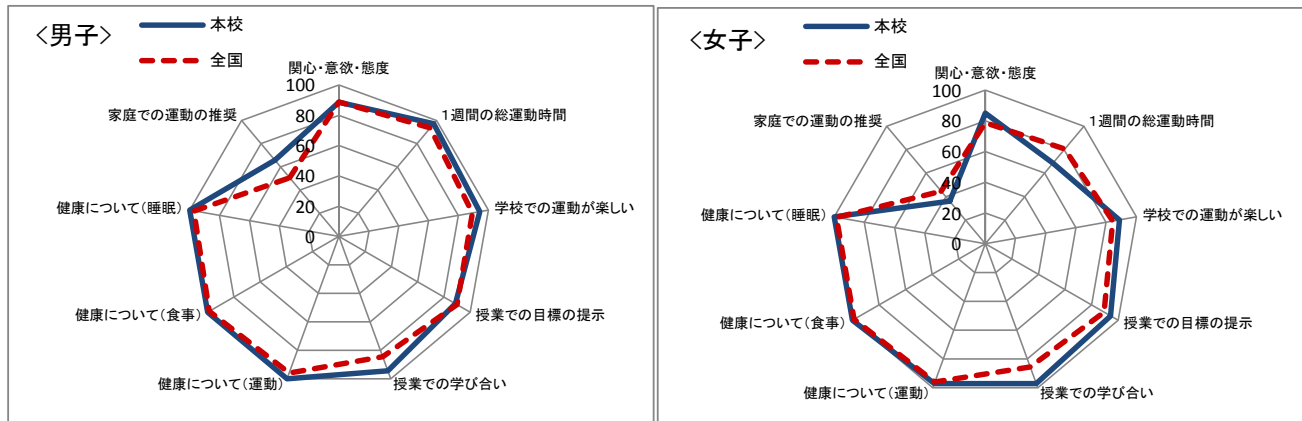
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.84	27.36	43.44	52.24	392.65	86.06	7.99	195.62	20.55	42.32
本市	29.96	28.56	45.76	54.26	398.34	88.17	7.81	201.18	21.22	45.36
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.87	23.87	46.22	47.37	286.85	59.87	8.78	170.26	12.98	50.61
本市	24.43	24.41	48.63	48.43	297.70	60.39	8.70	175.80	12.96	52.53
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

ふだんの体育・保健体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っているにおいて、男女ともに全国値よりかなり高い結果となった。これは、ICTリーディングスクール研究校として、積極的にタブレットPCを活用した協働学習を推進してきた結果であると考えられる。今後も引き続き、ICTを活用した授業を展開し、生徒自らが課題に気づき、解決に向けた話し合い活動をより一層充実させていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

昨年度の調査結果を踏まえ、ジャンプアップ運動、ランニングタイム、握力アップ運動、体幹トレーニング(怪我予防)を授業開始前において実施した。一定の成果は現れているが課題も残る部分がある。今回の調査結果の課題となっている投力・握力・全身持久力を一層高めるための運動を、北九州市体力向上プログラムを活用し、適宜授業にとり入れていく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

女子における1週間の総運動時間が全国値より下回っている。今後、学校HP、学校通信、学年通信、学級通信を通して保護者及び地域に発信していく。また学校としても「運動強化週間」を設け、運動の場を設定するとともに生徒の意識高揚を図りながら運動を生活習慣の一部として重要視させるようにする。